

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法評価法		講義	嘉納 綾	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
作業療法は、評価に始まり評価に終わるといわれている。評価を行うには、対象者を知りたいという気持ち、そしてそのために自ら行動することが求められる。この授業では、PBL(problem-based learning ; 問題基盤型学習) テュートリアルを取り入れ、自ら課題を見つけ問題解決を図ることを経験する中で、作業療法評価の流れを理解することを旨とする。				
授業の到達目標				
1. 作業療法評価とは何かを説明できる。 2. 作業療法評価の流れを説明できる。 3. 事例の情報をICFで整理できる。 4. 事例の全体像がわかる (情報を統合して解釈できる)。 5. MTDLPアセスメントシートに事例の情報を記入できる。 6. 事例について考えたことを報告書にできる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 作業療法臨床実習について			
2	作業療法評価とは			
3	評価の実際 演習①			
4	評価の実際 演習②			
5	評価の実際 演習③			
6	評価の実際 演習④			
7	PBL①			
8	PBL②			
9	PBL③			
10	PBL④ 発表準備			
11	発表			
12	PBLふりかえり 事例報告書の書き方について			
13	MTDLPについて			
14	MTDLP演習			
15	まとめ			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート	60%	事例報告書で評価する。		
小テスト				
平常点	10%	授業への参加態度や出席状況で評価する。		
その他	30%	発表、MTDLPアセスメントシート、授業中に提出してもらうワークシート等で評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版	能登 真一 他・編		医学書院	
作業療法学全書 改訂第3版 第3巻 作業療法評価学	生田 宗博・編		協同医書	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
グループワークには積極的に参加すること。				